

白河高校同窓会報

発行所
郵便番号 961-0851
福島県白河市南登り町54
白河高校同窓会
☎0248-24-1116

発行人
鈴木雅文
編集委員長
堀川哲雄

(有)古楓堂堀川印刷所



「豊かさ」とは

校長 矢森健一

同窓生の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年度は、皆様の多大なるご支援とご協力で創立100周年記念式典を成功裏に終えることができました。そして、本年度は、記念事業で残っております「白河高校100年の歩み展」を無事終え、登龍会館の改修工事も順調に進んでおります。これまでの皆様のご尽力に対して、衷心より御礼を申し上げます。

さて、私は、人生とは旅のようなものだと思っています。どのような旅を選ぶかはそれぞれの自由です。最短時間で目的地を目指すという効率性を重んじる人もいるでしょう。しかし、私は鈍行列車での旅のような人生を送りたいと思っています。鈍行列車での旅は、決して快適なものではありません。地形に邪魔され遠回りしたり、時には乗り換えのために何時間も待たされたりすることもありません。しかし、鈍行列車での旅は、最短時間、最短距離では出会えない人、見るこ

とができない景色と出会うことができるところです。そう、私は、取って時間をかけることにこだわりたいのかもしれない。知らない人の講演会への参加、やったことのないスポーツの挑戦など、一見どれも無駄のように見えますが、そこには立ち止まることによつてしか味わえない何かがあるように思います。その時々のお会いによつてしか感じられないもの、ゆつくりとした時間の中でしか見えないもの、そのようなものが自分自身を豊かな存在にしていけるように思えてならないのです。多くの出会いに恵まれた教員生活だったと思っています。特に最後、白河の地に辿り着き、創立100周年という貴重な機会に立ち会うことができ、白河高校の歴史「登龍」の精神などを多くの人と語りながら、多くの人に支えられ、最後の教員生活を楽しく送ることができています。同窓生の皆様、そして地域の方々との出会いに大いに感謝します。



飛翔 今井珠泉

白河市歴史民族資料館蔵



新たなスタートにあたって

同窓会長 鈴木雅文(高28)

2022年、令和4年の福島県立白河高校創立100周年イヤーに際しましては、多くの同窓生、地元企業、地域の方々、PTAの皆様、そして白河高校の校長先生を初めとする先生方、そして生徒の皆様方に支えられ多くの事業が成し遂げられました事、あらためて御礼申し上げます。コロナ禍の真っ只中においての実行委員会の発足、事業立案と実行、多くの皆様への浄財のお願いと、どれ一つとっても困難な中行われました。事業遂行にとって一番大事な会議、会合が出来ませんでした。その中において意思の統一が図れたのは、ひとえに関係者の母校に対する熱い思いと、責任感であったと思っております。また、コロナ禍においても是が非でも成功させるんだという強い気持ちへの覚悟が実行委員会に出来上がったことが大きな要因であったと思っております。覚悟を決めると

一口では言われますが、いざ自分のこととして実際に腹を括ることは、並大抵のことではありません。それを成し遂げていただいた実行委員の皆様を重ねて御礼申し上げます。

記念事業もあと登竜会館の改修を残すところとなり、事業報告と決算報告を総会の場においてご承認頂き、解散の運びとなります。より良い報告をできるような今一度気を引き締めて完遂いたします。

101年目がすでにスタートしております。同窓会と致しまして150年、200年を見据えて学校との関係を密にして、生徒たちの環境整備に側面支援を果たしてまいります。その為にも支部の復活、設立、財務体質の強化や諸改革に取り組んでまいります。皆様の変わらぬご支援をお願い申し上げます。御礼と決意に代えさせていただきます結びと致します。

令和5年度同窓会総会開催

去る5月20日、令和5年度白河高等学校同窓会総会を開催者67名の参加により東京第一ホテル新白河にて開催しました。

横村勝己事務局長(高37)の司会進行のもと、中村彰副会長(高20)が開会を宣言し、参加者全員で校歌斉唱を行った後、この一年間のうちに逝去された会員の方々のご冥福を祈って、黙祷を行いました。

次に鈴木雅文会長(高28)からの挨拶があり、続いて矢森健一校長から白高の近況報告とこの春に赴任した緑川祐教頭(高48)をはじめとする学校体制の紹介を含めた挨拶をいただきました。

その後、各支部を代表して出席された東京登龍会会長の遠藤泰司氏(高9)、埼玉支部長の石井久雄氏(高22)、西郷支部長の金澤隆夫氏(高23)、泉崎支部長の箭内清和氏(高26)を紹介し、支部長を代表して遠藤会長と箭内支部



されました。その後、役員改選に入り、かねてより100周年の担当事業が終了したら若い方に交代したいとの意向がありました。副会長の中村彰氏が退任し、新副会長に会計の満山喜美氏、新会計に庶務の金澤博信氏(高29)を推薦する役員案が提案され、満場一致で承認されました。

その後、諸橋氏から令和5年度事業計画(案)、満山氏から令和5年度予算(案)が提案され、それぞれ満場一致で承認されました。最後に石塚次男副会長(高26)が開会を宣言し、総会を終了しました。

長よりそれぞれ挨拶がありました。また、来賓を代表して福島県議会議員の満山喜一氏(高22)と三村博隆氏(高41)、後援会会長の金内貴弘氏(高40)、保護者と教師の会会長の宗田浩一氏(高43)からご祝辞をいただきました。

議事では、慣例により還暦を迎えた高33回卒業生の中から芝澤淳氏が議長に選出されました。始めに庶務の諸橋和典氏(高34)から令和4年度事業報告、会計の満山喜美氏(高33)から令和4年度決算報告、加えて会計監査の有賀秀晴氏(高28)から監査報告があり、それぞれ承認さ

【令和5年度同窓会役員】

役職	氏名	卒回
会長	鈴木雅文	(高28)
副会長	金澤隆夫	(高23)
副会長	石塚次男	(高26)
副会長	満山喜美	(高33)
事務局長	横村勝己	(高37)
会計	金澤博信	(高29)
会計監査	有賀秀晴	(高28)
会計監査	鈴木茂久	(高29)
会計監査	芝澤浩	(高39)
庶務	下重泰治	(高31)
庶務	斎藤正明	(高32)
庶務	諸橋和典	(高34)
庶務	藤田龍文	(高39)
庶務	金内貴弘	(高40)
(事務局長補佐)		
庶務	須釜俊男	(高40)
庶務	兼子聡	(高41)
庶務	青木大	(高43)
庶務	高内慎介	(高46)

白河高校創立100周年記念事業

○登龍会館の改修工事が完了
創立100周年記念のメインの事業である登龍会館の改修工事が10月2日に完了しました。

事業費…3200万円(控除寄付金2693万円と残りは登龍会館設備充実積立金より充当)

○多くの寄付金を頂きました
多くの同窓生の皆様をはじめ、地域の方々からの力強いご支援をいただきました。



10月3日、第18回4組卒業生白骨会の皆様よりご寄附をいただきました。

寄附金贈呈

総額…5435万円(控除寄付金3132万円・一般寄附金2302万円)
○白河高校100年の歩み展を開催
同窓生をはじめ地域の方々、白河高校100年の歩みを知っていただくために開催しました。

令和4年度 白河高等学校同窓会会計決算書

令和5年度 白河高等学校同窓会予算書

Table with 4 columns: Item, FY4 Budget, FY4 Actual, and Remarks. Total income: 8,660,000 vs 8,684,535.

Table with 4 columns: Item, FY5 Budget, FY4 Actual Ratio, and Remarks. Total income: 5,107,600 vs 3,552,400.

Table with 4 columns: Item, FY4 Budget, FY4 Actual, and Remarks. Total expenses: 8,660,000 vs 7,425,440.

Table with 4 columns: Item, FY5 Budget, FY4 Actual Ratio, and Remarks. Total expenses: 5,107,600 vs 3,552,400.

同窓会基金定期預金の総額は5,439,177円となります。

令和5年講演会の開催について

○講師：鎌水 実氏(高33)
演題：「白河高校100年の歩み」

この度の総会では、講演の機会を与えてくださいます。誠にありがとうございます。

私は昨年度まで『100周年記念誌』の執筆・編集を担当させていただきましたが、講演に向けて本校の歴史を深く調べる中で、自分が「何となく分かったつもり」でいたことの多さに改めて気付かされました。具体例をあげると、なぜ白河中は相馬中より20年以上、喜多方中より5年も設立が遅れたのか? 「登龍健児」はなぜ他の動物ではなく「龍」なのか。貴重な美術作品が、なぜこれほど多く所蔵されているのか……。最初の答えは当時の国・県の教育行政による制限のため、地域の人々が未来を担う若者への期待から起こした長きにわたる設立運動が、大正11年にやっと実現しました。他の答えは割愛しますが、その背景に共通するのは、草創期の学長はじめ先生方が、自分たちで理想の中学校を作りあげよう



とする情熱と行動力です。「故郷」「紅葉」等で有名な岡野禎一が作曲し、制定以来全く変わっていない校歌のエピソードも含め、歴史を学ぶ一人として「本当のこと」を追求し、深く理解することの大切さと楽しさを求めて実感することができました。

将来の創立150周年、200周年に向け、今回得た貴重な情報や資料を整理し、次の世代へと伝えていくことが私の使命と考え、微力ながら努力していきます。同窓会の皆さん、今後ともご指導をお願い申し上げます。

○講師：鈴木 信 弘氏(高33)
演題：「つまずいたその後」

この度、令和5年度総会にて、幹事当番学年である高33回卒の中で講演を担当させていただきました

ました。同輩の中には、素晴らしい実績や業績を残され、今も活躍している方もいる中で、このような名誉ある場をいただきありがとうございます。

当初、OBの方々に前に、何を話したら良いのか悩み、勤めていた中での商品開発や生産の話を見せていただくかと考えていました。しかし、それは私の中で完結してしまう話なので、今回は「ダルマ」を意識して、転んでも起き上がっていく話をしようと思いました。

周りからは、私は順調に人生を歩んでいるように見えていたと思います。しかし、大学受験や、大学生活、就職などで、色々迷ったり、自分なりに苦労したことが多々ありました。それは、他の人から見れば取るに足らないこともあったと思いますが、



本人にとっては一大事でした。そんな中、乗り越えられたのは、自分なりにやりたいことを意識する事ができるようになったからだと思います。初めの分岐点は、そんな意志もなく、成り行きに任せてしまいました。自分の思いが明確になったとき、自分で掴むための努力を始めた

白河高校後援会

について



後援会会長
金内 貴 弘(高40)

ました。思いは、必ずしも叶う環境にあるとは限りませんが、近づこうという努力をしていけば、環境も変わってきます。そう信じて、私は福島県の役に立つため4月から環境放射能学を学びに大学院に入学しました。思いを実現するため、転んでも前を向いていこうと思います。

皆様こんにちは。白河高校後援会の今年度の会長を務めております金内と申します。ご存じの方も多いかと思いますが、この会長職は長年にわたり櫻井和朋先輩がお務めになりました。100周年を機にご勇退されました。後任を決めるにあたり、選任の負担や継続性を考慮し、櫻井前会長と鈴木雅文同窓会会長が編み出してくださった方法が、「保護者と教師の会会長が、任期

終了後の1年間、後援会長の任にあたる」というものでした。保護者と教師の会としてもその趣旨に賛同し、昨年度会長だった私が、今年度1年限定で後援会会長を務めさせていただいての次第です。

後援会は、同窓会と共に登龍健児を支える組織です。櫻井前会長の時代には、教室のエアコン設置や部活動の支援など、学校や生徒たちにとって大きな役割を果たしてきました。その歴史と実績に感謝の気持ちを持ちつつ、これからも貢献できるように頑張っていく所存です。同窓会と同様に後援会の活動にもご理解をいただき、一人でも多くの方に後援会にもご加入いただけますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

母校だより

人事異動

令和5年度の人事異動は次の通りです。

3月末には、梅野克也教頭先生が高校教育課へご栄転されたのをはじめ、合わせて15名の教職員がご退職・ご転出となりました。そして4月1日には、高校教育課から緑川祐教頭先生(高48・地歴)をお迎えし、あわせて11名の教職員の方々を本校にお迎えしました。

その中で、同窓生は鐘水実先生(高33・地歴)が定年退職、野木良一先生(高25・理科)、高田良一先生(高32・地歴)がご退職、鈴木諒先生(高67・地歴)は退職し、磐城桜ヶ丘高校へ新採用となりました。また、大網信立先生(高35・理科)が安積黎明高校に異動されました。鐘水先生は定年退職となりましたが、引き続き本校で再任用教諭となりました。

今年度も、本校は教育熱心で優れた指導力を持つ先生方をお迎えすることができました。それぞれの専門分野はもちろんのこと、学校生活の様々な場面で温かく、そしてきめ細やかに生徒に接して

ただき、地域のリーダーとして、さらには国際社会の中で活躍できる人材として生徒たちが成長できるように、ご指導いただいております。



教頭
緑川 祐
(高48)

この4月に、県教育庁高校教育課より着任しました。管理職としての初任地が母校となったことは、望外の喜びであるとともに、身の引きしまる思いです。

ひたむきに目標に向かって学ぶ生徒たち、それを支える教職員の姿に刺激を受ける日々です。一方で、学校の教育活動は保護者の皆様や地域の支えがあつてこそであり、その地域で活躍する名士には、同窓生である先輩諸氏が多く名を連ねていることに、改めて気づかされました。

将来を担う有為な人材を育てるには、地域からの支援は欠かせません。生徒たちが未来に向かって大きく羽ばたけるよう今後ともご指導・ご助言をお願いいたします。

進学報告

北海道大学に進学して



一組
伊藤 日和

私は現在、北海道大学文学部に進学し、自然溢れる素晴らしいキャンパスで大学生活を送っています。私が大学に入学し、強く感じていることは、積極性、主体性の大切さです。

まず、授業の面では発表は指名されるのではなく、自ら手を挙げる授業が多いです。また、英語でのディスカッションやプレゼンテーションなど、自分の意見を発信する機会がとて増えました。最初はとて緊張しましたが、自分の意見を発表したり、周りの人との意見を共有したりできることで学べることは非常に多く、将来にも役立つ経験であると強く実感しています。さらに、教授は親身になって自分の質問や相談に乗ってくれることが多いです。しかし、自分から積極的に行動しなければなかなかそのような機会は得られません。次にサークルについてです。私は大学祭の実行委員とボランティアサークルに所属しています。高

校のときよりも規模が大きく、より主体的に行動する場面が増え、責任を感じると同時にやりがいや、充実感を感じています。最近はその交流祭りの手伝いや、留学生との交流会などの様々な活動ができて嬉しいです。

このように、私は大学生活において自分から行動することの大切さを改めて感じています。責任の重さを感じることもありますが、それ以上に、楽しさや喜びが大きいです。受験期は、辛いこと、大変なことがたくさんあると思いますが、しかし、大学では楽しいことが沢山待っています。自分のペースで、それぞれの目標に向かって頑張ってください。

千葉大学に進学して



二組
小澤 圭一郎

私は現在、千葉大学園芸学部緑地環境学科で大学生活を送っています。入学してから約半年が経過しましたが、高校とは全く違う生活で、慣れるのに少し苦労しました。まず、大学は、必修の授業以外は自分で取りたい授業を履修するため、一週間の生活パターンを自分で決めることとなります。好きな時間に講義を受けられる一方

で、遅刻しても、課題を出さなくても何か言ってくれる人は誰もいないので、課題の提出期限などは自分で管理しなければいけません。私は、忘れやすい人なので、気が付いたら課題の提出期限まで残り2時間になっていたこともありました。大学は単位が足りないとか卒業できなかったり、成績が悪いと自分の入りたい研究室に入れないかたり、後々後悔することになるので単位だけは落とさずしっかりと取るようにしたほうが良いと思います。

私の通う千葉大学は関東では数少ない総合大学であり、北は北海道、南は沖縄まで様々な人が集まり、学部生だけでも1万人を超す大きな大学です。留学生も多く、海外の人と話す機会もあり、高校ではできない経験ができると思います。サークルもたくさんあり、理系文系問わず、様々な人と交流でき、自分の好きなことをとてることができます。私は地理や環境に興味があつたためこの学科に進学しましたが、前期は植物について主に学び、学外実習では港区の緑地を見学したり、皇居外苑に見学に行ったり、都会を緑でより良い環境にしていくランドスケープ学についても学びました。地球温暖化が大きな問題になっている現代において、トレンドの学問なので興味のある人はぜひ調べてみてください。

受験は長く、自分の思い通りにいかず、辛い時もあると思います。自分の進路実現に向けて頑張ってください。

東京農工大学に進学して



二組 小山田悠吾

私は現在、東京農工大学の工学部で大学生活を送っています。7月末に期末試験を終え、1年前期の教育課程が終わりました。振り返ると、高校生活の頃よりはるかに社会人としての生活に近づいたと感じています。例えば、卒業するための単位習得に関しても、救済措置はなく、遅刻や欠席は完全に自己責任です。生活面も、食事は自分でつくらなければ食べることができず、光熱費を払わなければ当然使用することはできません。しかし、これは一人前の社会人になるための試練のようなつもりでクリアしていけば、どんどん自分の人間力が向上していくように感じています。

科における医療機器の展望や必要性などを講義していただける授業です。大学1年生から、医師の方と連携し、医療機器についての知見を深める機会に恵まれています。学校が終わった後は、サークル活動やアルバイトをしています。大学生活を充実させるためには、サークルに入ることをお勧めします。人間関係の幅が広がり、様々な人と接することができます。アルバイトでも、大学外の人間関係を築くことができます。大学とは違い、まったく違う人生を歩んできた様々な人と接することができます。考えを広げる機会が増えます。また自分が経済の一部として働くことは、社会人としての自覚を強めます。

いない状態からのスタートでした。そのため最初は少し不安でしたが、授業やサークル活動を通して友人もでき、楽しい生活を送ることができています。私は「学校心理」という学科に所属しているため、大学では教育や心理学について学んでいます。子どもの心の発達過程や人の心の仕組みなど、自分が興味のある内容について詳しく学ぶことができますので、毎回の授業がとても楽しいです。また、「心理学統計法」という授業では高校で学習する数

びについて考えるなど、実際に子どもと触れ合わなければわからないようなことを毎回学ぶことができます。最後に、大学では自分の学びたいことについて、それを専門的に研究している先生方から詳しく学ぶことができます。まだ自分の学びたいことがはっきりと決まっていないう方も、なんとなく気になっている学校のオープンキャンパスなどに参加してみるのも良いと思います。意外と見つかるかもしれません。皆さんのことを応援しています。読んでくださりありがとうございます。

福島大学へ進学して



六組 陣野祥汰

私は現在、中学時代から志望していた福島大学で大学生活を送っています。私には「福島県を教育で復興させる」という夢があり、福島で教育について学びたいと考えた。地元福島に進学を決めました。

理科、学校教育についての学習を行っています。30人弱のコースのため、入式からみんなとすぐに仲良くなり、今では一緒に旅行に行ったり、テスト前は各々の数学の得意分野を活かして学び合いを行ったりしています。6月には全て自分たちで企画・運営を行う1泊2日の1年次研修があります。コースの先輩による福島市内全体を使った数学・理科の謎解き、温泉街散策、夕食づくりなどを通してコースの仲間との絆を強固なものにすることができました。また、私たちは「未来の社会や子どもたちに向けて数学・理科教育の点からできることは何か？」というテーマで探究を行っています。AIやICTを活用した授業、震災教育×数学・理科、STEAM教育などといった新しいことへ挑戦したり、夏休みに実際の小・中学校へ授業見学に行ったりするなど様々なことを1年次から経験しました。

学芸大学に進学して



四組 佐川琴春

私は今大学生として、まずは自分の入りたい研究所に入るための学習、そして社会人としての生活を続けていきたいと思っています。白河高校の皆さんが希望の大学に進学できるように、応援しています。

私の大学生活について少しお話ししたいと思います。高校までとは違い、大学はほとんど知り合いの

サークルに所属しています。このサークルは未就学児・小学生を対象に学生が主体となって遊びや行事を企画・運営するというものです。私は将来子どもに関わる仕事に就きたいと考えています。そこで、早いうちから子どもと触れ合うことのできるこのサークルを選びました。この活動では、子どもへの関わり方や、低学年から高学年までがみんなで楽しく遊べる遊

私が所属している人間発達文化学類・数理自然科学コースは数学教員、理科教員、小学校教員を目指す人が集まり、主に数学、

大学全体では福島県の復興についての授業があります。私は「むらの大学」という授業を履修しており、東日本大震災の被災地で1年間フィールドワークを行い、震災のアーカイブ活動や復興事業に取り組んでいます。大学は物凄く楽しいです。白高生の皆さんが受験を乗り越えて夢や好きなことに打ち込める大学生活が送れるよう応援しています。

進路報告

北海道大1名、東北大5名、福島県立医大医学部1名、東京農工大1名、千葉大5名、東京都立大1名、新潟大7名、埼玉大3名など、現役国公立大学合格者91名！

進路指導主事 金田孝志

令和4年度卒業生221名の進路状況を報告いたします。四年制大学の進学者は192名で全体の86・9%でした。国公立大学には85名が進学し、全体の38・5%でした。

次に合格者数ですが、国公立大学は北海道大、東北大、福島県立医大医学部、千葉大、東京都立大などの難関、準難関大学を含め、計91名が合格しました。卒業生が221名ですので、4割以上の生徒が国公立大学に合格したことになります。福島大15名、新潟大7名、宇都宮大8名など地元や中堅大学でも堅実な結果を残しました。私立大学は、現役生として久しぶりに慶応大の合格者が出たほか、明治大、青山学院大、立教大、中央大、法政大、学習院大などに延べ354名が合格しました。

振り返ると、昨年度の卒業生は、新型コロナウイルスが猛威を振るっていたまさにその時に、白河高校の門をくぐった生徒たちでした。臨時休校や部活動の制限、大会の縮小・中止などがあり、マスクを外すこともできず、思い描いていた高校生活ではなかったかもしれせん。しかし、白高生としての自覚と誇りを胸に、さらに創立100周年の卒業生としての気概を忘れずに努力した姿には、敬意と称賛を表したいと思えます。皆さんの学生生活が生きていきと充実したものになるよう心より願っています。後輩の皆さんも、先輩たちを目標に、いや、さらに上を目指して勉学に励んでください。

令和4年度卒業生 大学等合格状況一覧

《国公立大学》

Table with 4 columns: 学校名, 男, 女, 計. Lists various national/public universities and their student counts.

《私立大学》

Table with 4 columns: 学校名, 男, 女, 計. Lists various private universities and their student counts.

Table with 4 columns: 学校名, 男, 女, 計. Lists various private universities and their student counts.

Table with 4 columns: 学校名, 男, 女, 計. Lists various private universities and their student counts.

《短期大学》

Table with 4 columns: 学校名, 男, 女, 計. Lists various short-term universities and their student counts.

Table with 4 columns: 学校名, 男, 女, 計. Summary table for short-term universities.

《専門学校》

Table with 4 columns: 学校名, 男, 女, 計. Lists various vocational schools and their student counts.

《予備校等》

Table with 4 columns: 学校名, 男, 女, 計. Lists preparatory schools and their student counts.

令和4年度卒業生 合格先状況一覧

Table with 4 columns: 学校名, 男, 女, 計. Summary table for all graduates' destinations.

令和4年度卒業生 進路先状況一覧

Table with 4 columns: 学校名, 男, 女, 計. Summary table for graduates' future paths.

部活動報告

第47回かごしま総文に

参加して

書道部3年 小湊梨々花

私は、8月1日〜3日に行われた第47回全国高等学校総合文化祭に参加しました。

他の都道府県の作品は、迫力ある作品や繊細な作品、表情豊かな作品など、同じ高校生とは思えないほどレベルが高く、たくさんの作品に感動しました。

また、展示された自分の作品を見て、私自身が福島県、そして白河高校の代表としてこの大会に参加できたことをとても誇らしく感じることができました。

2日目に行われた他の都道府県の方との交流会では、屋久杉を使用したりとコースター

に墨で文字を入れたり、鹿児島島のシンボルである桜島の噴煙をイメージしたメッセージカードに、「未来への希望と夢」をテーマとして、



メッセージを書いたりしました。私の選んだ言葉は「ありがとう」と「登龍」です。同じ班の人はみんな初対面でしたが、書道のことをたくさん話して親交を深めることができ、とても貴重な経験になりました。

今回、私が出品した作品は、「針切(はりぎれ)」という平安時代の仮名作品です。高校の書道部に入り、先輩方の作品や活躍に刺激を受け、全国大会出場を目標にしてきました。細く鋭い線で書くことや集中力を持続させることはとても大変でしたが、たくさん練習を重ね、目標を達成することが出来て、とても嬉しかったです。

最後になりますが、顧問の先生をはじめとして熱心にご指導くださった方々、最後まで応援しサポートしてくれた家族に心から感謝しています。本当にありがとうございました。

かごしま総文に参加して

写真部3年 関山翔太

僕は、7月30日から8月1日にかけて開催された「第47回全国高等学校総合文化祭(かごしま総文)写真部門」に参加してきました。

1日目は、全国から選ばれた約300点の作品を見学してきました。ハイレベルな作品が多くあり、たくさんアイデアや撮影方法を知れたとともに、自分では考えられないような着眼点から撮影している作品もあり非常に良かったです。その後に行われた交流会では、各都道府県の生徒が7〜8人のグループになり、それぞれが持ち寄った写真をお互いに交換して1冊のアルバムを作ったり、写真に関することを共有することができました。

2日目は、鹿児島市内で撮影会を行いました。僕は初めに桜島に行きました。途中で土砂降りに遭うなどあいにくの天気ですが、最高のロケーションで撮ることは出来ませんでした。いつも画面上でしか見られなかった桜島をカメラに収めることができました。次に、イオワールドかごしま水族館に行きました。初めて見るジンベイザメや中々見



ることのできないイルカショーに圧巻されつつ、前日に得られたアイデアをもとにそれらを撮影することができました。最後に、鹿児島一の繁華街と言われている天文館通りに行きました。沢山の店が並ぶアーケード街をぐるっと散策しながら、繁華街ならではの明るさや活気溢れる様子、逆に一つ道を外れると見えてくる閑散とした寂しい様子を撮影することができました。

3日目は、審査員である2名の先生の講演会に参加しました。僕の何倍、何十倍も写真での経験を積まれた先生方からのお話は、一言一言がとても重く響き、これからも写真と関わって今の自分よりもさらにレベルを上げた写真を撮影できるようになれたらと、一つの目標を持つことができました。

3日間行われた「かごしま総

文」は、多種多様な写真のことを学べたり、実践をしたり、目標を持たせてくれたりと今まで的人生の中でも非常に良い経験となりました。これをもって高校の写真部としての活動は幕を閉じますが、大学生になっても社会人になっても写真にはたくさん関わっていこうと思います。

インターハイに

参加して

弓道部 顧問 高橋 幸博

8月3日から真駒内セキスイハイムアイスアリーナにて開催された、第68回全国高等学校総合体育大会弓道競技に、女子団体福島県代表として参加して参りました。共学化1期生の団体を率いて、女子としては初めてのインターハイに参加したのが1999年(平成11年)の盛岡であり、今回の女子の出場は14年ぶり(開催されなかった年を除くと13年ぶり)5回目でした。その間、大会参加資格の別途規定に、「部活動時間の他校との均衡」に触れる項目が加わるなど、時代と共に大会の運営等が変わるのを感じました。

8月1日早朝、新幹線にて仙台空港に向かう。弓を飛行機に積み込むのに時間がかかることからの時間設定であったが、世



界最長である和弓を使用するこ
とに誇りを感じながら、持ち運
ぶ際の不便さも感じた。札幌か
らの移動の際には北海道の広さ
を実感し、行程表のわずか数セ
ンチの移動が実際の数時間とな
り、競技会場に着いたのが午後
3時頃となる。練習会場での練
習もままならず。会場の雰囲気
のみを確認し、配宿先の定山溪
温泉の宿舎に向かう。

8月2日、10時24分より本会
場練習の予定。それに先立つ9
時24分が割り当てられた会場
近隣の小学校体育館での練習時
間。宿舎の朝食は6時30分
であり、7時5分発の路線バス
の移動では十分に食事・準備が
できないことからタクシーでの
移動を余儀なくされる。アウェ

イの厳しさを感じる。練習会場
本会場での練習では、一本一本
落ち着いて引くように心がける。
8月3日開会式、その後には男
女個人戦。福島県の個人参加選
手を応援し、午後空いている練
習会場へ移動。移動の前に手配
しておいた昼食を食べる。以前
は衛生上の問題から凍ったよ
うに冷たいものであったが、気
のせいかわ若干の温かさを感じる。
夕食の時間を考慮しながらも、
南区体育館にて最後のチームに
なるまで練習する。練習を優先
させたため、帰日もタクシーと
なる。

8月4日男女団体予選。本校
の出番は9時56分。第2控と第
3控の間に仕切りがなく、「澄
まし」に集中できるか心配にな
るが、選手たちは落ち着いて表
情である。ギリ粉とフデ粉を選
手に確認し、本番に臨む。今ま
での経験から、「9中でトーナメ
ント進出をかけた射撃競技か」
と予測はしていた。本校は一本
目1中、二本目4中、三本目2中
四本目2中の計9中。5番の選
手の最後の一本が的中したこと
により、猪爪射撃への希望を持
たせてくれる。

弓に関して良く話してきたの
ですが「負けるときはいつも僅
差」でした。今大会は10中での
射撃競技となり、本校の決勝ト
ーナメント進出はなりません
でした。しかし、最後の一本が中
ったことにより、予選最後のチ
ームが終わるまで集中して臨む
ことができました。

弓道は非常に潔いスポーツで
あると考えています。相手のミ
スにつけ込むことはできません
その分、普段からの学校生活・
ものの考え方・練習への取り組
み方等も大きく影響するものと
考えています。今回のこの経験
を、自分たちそれぞれの今後の
生き方に生かし、人としてのさ
らなる成長に繋げてもらいたい
と思います。

第70回 全国高等学校

剣道大会に出場して

剣道部 顧問 滝口晃一

8月3日から6日までよつ葉
アリーナ十勝で行われた令和5
年度北海道インターハイに、団
体戦と個人戦で出場してしまし
た。個人戦は2年生の後藤ゆう
かと3年生の丹野菜々子の2名
が出場し、福島県代表を白河高
校で独占しての出場でした。

後藤も初戦に勝利した後、末吉
選手(熊本県・八代白百合高校)
との対戦に臨みました。強気で
試合を進めていきましたが、こち
らも延長戦に入ったところで面
を打たれて敗退となってしま
いました。

まず個人戦ですが、丹野は初
戦に勝利し、次に坂口選手(香
川県・高松商業高校)と対戦し
ました。優勢な試合展開ではあ
ったものの延長戦の末に面を決
められて敗れてしまいました。



昨年年度末に全国選抜大会への
出場を逃した悔しさを原動力に
これまで努力を積み重ねてきま
した。その結果、それぞれの選
手が全国の場でも力を出し切り、
団体戦・個人戦ともに勝利を取
めることができました。残念な
がら全国制覇という目標の達成
には及びませんでした。新チ
ームでも目標達成のため、心身
と技術の向上を目指していきま
す。

最後になりますが、多くの方
々からのご支援とご声援をいた
だくことまで活躍するこ
とができました。本当にありが
とうございました。今後とも応
援をよろしく願います。

支部だより

東京登龍会総会 同窓会を楽しもう!

登龍会会長 加藤直二(高19)

6月3日の東京登龍会総会にて遠藤会長の後任として会長を拜命いたしました高27回卒の加藤直二でございます。一言ご挨拶申し上げます。

私は6年前の平成29年、西暦2017年に副会長職に就任致しましたが、この年はニチレイの大先輩である金田幸三元相談役、人見信男元会長が逝去され、後任として遠藤副会長が会長に就任され実質的に新体制がスタートした年でもありました。以来、あっといふ間の6年でしたが、新型コロナやロシアのウクライナ侵攻などかつてない激震が世界を揺るがし、東京登龍会も一時活動停止を余儀なくされるなど多方面で影響を受けました。しかしながら、こういった難局を乗り越え、本年総会決議にもありました様に昨年引き続き今年も総会を開催し、塩川哲也氏(高29回卒)の講演や多数の女性、初参加者、新卒学生諸君など多彩な顔ぶれの参加者で懇親会も大変盛況でした。これもひとえに遠藤前会長の強力なリーダーシップの賜物であり、この6年間のご尽力に心より御礼申し上げますとともに、誠に



お疲れ様でした。

東京登龍会は1987年の第1回総会から35年余が過ぎ、歴史ある同窓会に発展しました。その後任会長を継ぐにあたり、先達の偉大さには全く及びませんが、これもひとえに皆様のご縁と思い、東京登龍会の持続的な発展に尽力することが自らの使命と肝に銘じおりますので引き続きご支援のほどお願い申し上げます。

就任にあたり、今後の東京登龍会の発展のため思うことは、親交融和と母校の発展という会則の趣旨に則り、親しく交わりあえる仲間の輪を広げることが優先課題と考えます。会員には正に多士済々が集い、こういう方々がフォーラムや他の委員会と交流を深めることが自ずと会の発展に繋がるだけでなく、校歌斉唱一つで全員の心がひとつ

に繋がりが、結果母校の発展へと動いていくのではないかと考える次第です。

また、新しい会の在り方を考える上で若い世代の参加は欠かせません。世代間の考え方の違いは当然ありますが、若い力と多様な発想を会の運営に反映させることは時代の流れでもあり、今後の会の持続的発展のために何としても取り組んで参りたいと存じます。

最後に、私の拙い経験則ではありますが、同窓会の様な任意の団体に関わるには時に時間と労力を要しますが、一方で新たな魅力に出会うことが多くあります。東京登龍会はそのような出会いに溢れ、人生の生き様を学ぶ格好の場でもありますので、新卒の学生諸君や社会人の方、そして初参加の方も親交を重ね、高らかに校歌斉唱するうちに、来て良かった!また会おう!という気持ちになるはずですよ。この出会いを大切に、様々な学びの場として東京登龍会を大いに楽しもうではありませんか。

西郷支部の近況報告

支部長 金澤隆夫(高23)

西郷支部では、8月25日に総会を4年振りに開催しました。来賓の高橋廣志村長、鈴木雅文同窓会長、矢森健一校長、横村勝己同窓会事務局長をはじめ、会員20名が出席しました。令和4年度の事業及び決算報告、令

和5年度の事業計画及び予算が承認され、役員改選では、支部長に金澤隆夫(高23回・再任)、副支部長に和知有三さん(高22回・新任)と佐藤厚潮さん(高30回・再任)、事務局に添田浩さん(高26回・再任)、会計に徳田庄一さん(高26回・新任)、監査に近藤富美雄さん(高21回・新任)、須藤清一さん(高25回・再任)が選任されました。

懇親会では、白河高校100年の歩みのDVDを見ながら4年振りの交流を深めました。
参加した和知肇さん(高14回)の球過ぎし歳月 並ぶ頭は 黒髪 白髪 光る禿げ



泉崎支部の動向及び活動報告

支部長 箭内清和(高26)

令和4年3月27日に泉崎村防災センターにて「泉崎支部設立説明会」を開催し、20名の参加者の協議の結果、「泉崎支部の設

棚倉支部総会開催報告

支部長 小河原康広(高24)

創立100周年おめでとうござい
ます。
コロナ感染症などもあり、中止となっていた総会も昨年より再開しました。場所は恒例でOBの経営する新富家さん、今年度は、役員も一部改選し、来賓の校長、本部役員にもご参加いただき、開催することができました。当支部でも会員となる卒業生はかなりの数になりますが、出席するメンバーは残念ながら固定化する傾向にあり、若いメンバー特に女性の出席はほとん

立」について賛同が得られ、役員についても承認を頂きました。それ以降、役員を中心に、「若い世代」(50歳代)に声かけをして、会員数を増やしてきました。
令和4年12月22日の役員会を経て、令和5年3月25日午後6時から、泉崎カントリービレッジにて、「設立総会」を開催いたしました。当日は、鈴木雅文同窓会長、石塚次男副会長、そして学校からは小田賢二教頭にも参加をいただき、正式に「泉崎支部」が誕生しました(支部の会員として62名が登録)。
支部会則を制定し、役員についても(昨年より若干増やし10名に)承認をいただき、その後の「懇親会」では、「泉崎支部」の発展を期して大いに盛り上がりました。

どない状況で、相変わらずの課題です。ここ数年、棚倉支部を牽引してきたメンバーの計報が続いた事も活動停滞の原因かと思われれます。以前はゴルフコンペや講演会なども開催しましたが、現在は総会開催のみの状況です。しかし校歌斉唱では元氣な声が響き渡り、懇親会になると懐かしい顔との近況報告、思ひ出話や年代を超えた意見の交換など総会開催の意義が感じられました。東白川郡には埜支部や矢祭支部もあり、協力しながら同窓会活動の活性化に取り組みたいと思います。

表郷支部

白河市の将来像を学ぶ

支部長 芳賀憲市(高19)

去る令和5年2月19日表郷公民館会議室において、支部顧問の鈴木和夫白河市長を講師に招き、標題の講演会を開催しました。参加会員は23名を数えました。

講演の中で、市長から「地域を取り巻く課題として、少子高齢化の進展と人口減少がすすむといった課題が続いているが、一朝一夕に解決できるものではなく、このような時ほど、地域の資源を見直し、地域の優位性を活かした政策が必要だ。」

そして、地域に住む住民一人ひとりが郷土に誇りと愛情を持って、未来に挑戦することが求められている。」と力説されました。母校愛、郷土愛、いずれも人



が行動を起こす原点が不可欠であることを再認識させられた講演会でありました。

矢祭支部便り

支部長 木村芳朗(高19)

令和4年度の総会は、11月5日出席者10名で実施しました。その中で創立100周年記念事業についての報告を行いました。

活動計画については、矢祭町内から通学している生徒を対象に、校歌、応援歌等を収録したCDをプレゼントする予定です。矢祭町からの遠距離通学は時間と費用がかかり、生徒も保護者も大変なことが多いと思いますので、同窓会として出来る範囲での応援をしていきたいと思えます。

5年度の総会は、コロナが5類に移行したこともあり、懇親会も行う計画です。

追悼

嶋倉晃様を偲んで

鈴木雅文(高28)



それは、35年前の白河高校図書館からの悲痛の叫び

から始まりました。県の予算が大幅に削られ、図書予算からの購入が大変厳しい状況にあり、その救いの手を同窓会にも求められました。同窓会として、図書館の困窮を知り、全国の同窓生に図書の寄贈を求めることとなったと聞いております。翌年より全国の同窓生からたくさんのお書の寄贈がなされました。それらの多くは、同窓生が収集し大事に書庫にとつてあつた書籍、研究書の数々でありました。しかし残念なことに、多くは白河図書館の蔵書と重複しており、蔵書の寄贈のため一回きりの寄贈となつてしまいました。そんな中、嶋倉晃様(高1)は、母校に対してのお書の寄贈は、学校内より希望を取つてその本を学校に贈るとのことでありました。当時、同窓会長であつた、私の父完一と嶋倉様は同級生であり、2人で話し合いがなされたのだと推測いたしております。以来、嶋倉文庫と名づけられた寄贈図書は、1年も途切れることなく総冊数5024冊になりました。金額にすると相当な額になることは、お察しいただきたいと存じます。2019年に嶋倉様の会社がある銀座に、私と当時の

表紙の作品について

『飛翔』

今井珠泉(中22)

画伯の描くモチーフは、自然、特に寒さの厳しい北海道や東北に生息する鹿や鷹などの動物を描くことで一貫していた。平成4年(1992)の再興第77回院展に出品した『飛翔』は、日本美術院賞(大観賞)を受賞した画伯

田中校長と2人でお伺いし、氏から90に迫ろうという高齢のため嶋倉文庫を終了する旨を伝えられました。しかし、ご長男の晃重氏を前に母校の100周年までは自分に何があるかと継続する

とのお約束を頂きました。我々は、100周年の式典に招待して表彰させていただきたくので、どうぞご自愛いただきたくとお伝えした。

残念ながら、式典にはご出席が叶わず、その後お亡くなりになられた事は痛恨の極みです。かくなる上は嶋倉文庫と嶋倉晃様の功績を末永く顕彰し後世に伝えてゆきたいと決意する次第です。感謝を込め、ご冥福をお祈りいたします。

今井珠泉画伯を悼む

佐川庄司(高27)



「振り返れば半世紀以上の時間が流れた。画道一筋、勉強すればする程、さらにその先

の記念碑的作品である。金箔を施した曙光の木々の間から獲物を狙つて疾風の如く飛翔し、風を切る翼や鋭い眼光の鷹の姿が見事に表現されている。そして、同15年73歳の時、日本美術院「同人」に推挙され、その画家としての地位を不動のものとした。画伯はその後も冬のオホーツク海を舞台にした作品を描き続け、最後の最後まで画道一筋に精進されたのである。画伯のご冥福をお祈りする。

岡倉天心創設の日本美術院の最高位である同人として活躍されていた日本画家の今井珠泉画伯(中22回卒・東京都板橋区)が本年1月15日に93歳で逝去された。冒頭に紹介した文章は、傘寿を過ぎた展覧会図録の中で画伯が語っていた言葉である。

今井画伯は、昭和5年(1930)1月14日、白河本町に洋服店を営む商家の四男として生を受けた。生まれ年の年号をとつて昭吾と名付けられた。白河中学校在学中に、熊本出身で美術教師を務めていた岩越二郎氏と出会い、日本画家を志すようになったという。中学卒業後に須賀川出身の日本画家須田珙中に師事した後、東京芸術大学美術部日本画科に入学した。在学中には学内の最優秀者が受賞する安宅賞を受賞するなどその画才を早くから発揮した。芸大卒業後、院展画家として活躍していた芸大教授の前田青邨に師事

している。画伯の特徴である緻密で静謐な画風は青柳の影響が大きいかも知れない。そして、その後画伯もまた院展を作品発表の場とするようになった。

画伯の描くモチーフは、自然、特に寒さの厳しい北海道や東北に生息する鹿や鷹などの動物を描くことで一貫していた。平成4年(1992)の再興第77回院展に出品した「飛翔」は、日本美術院賞(大観賞)を受賞した画伯の記念碑的作品である。金箔を施した夕景の木々の間から獲物を狙って疾風の如く飛翔し、風を切る翼や鋭い眼光の鷹の姿が見事に表現されている。そして、同15年・73歳の時、日本美術院「同人」に推挙され、その画家としての地位を不動のものとした。画伯はその後も冬のオホーツク海を舞台にした作品を描き続け、最後の最後まで画道一筋に精進されたのである。画伯のご冥福をお祈りする。

渡邊薫先生の思い出

安田好伸(高18)



渡邊薫先生(中19)は昨年8月に、95才で天に召されました。

開業医として一生を地域医療に尽してこられました。先代の義治先生がご存命の頃は「大先生」薫先生は「若先生」と呼ばれ、地域の人達に親しま

れてきました。生涯現役を貫き、亡くなる前の月まで患者さん達を診ておられました。

また学校医として学童たちの健康診断を行い、さらに企業医として従業員たちの診療に携わりました。夜間も救急の病人や怪我人の治療にあたりました。以前は入院患者も多く、そのお世話も大変だったろうと思います。先生のご一家は敬虔なキリスト教徒で、常に教会の活動に貢献なさっていました。

先生はクラシック音楽の造詣も深く、時間がある時は自宅のピアノを弾いておられました。本場バイロイトでワーグナーの楽劇を聴いたりもなさいました。白高100周年記念誌には、在学時代の思い出として、昭和19年に学徒勤労動員に参加し、横須賀海軍工廠で、航空母艦「信濃」の建造に携わった文章が掲載されています。

当時の白中19回卒の集まりが「トックリ会」で、平成26年まで通算32年間活動していたことが、同窓会報に記載されていました。先生はライオンズクラブに所属して、地域貢献活動に携わりました。

(公財)立教志塾では設立当初から長年、理事長として生涯学習活動を牽引し、後進の指導にあたられました。地域医療に、また社会貢献活動に活躍なされた先生の志を、私たちが引き継いでいきたいと思えます。

賛助金納入のお願い

かねてより様々な卒回の皆様より同窓会報を送って欲しいとの要望がございましたが、予算の都合上、同窓生全員にお送りすることは困難であるため、今回は、従来の送付基準の高55回卒までの皆様に加え、5学年(高59回、高64回、高69回、高74回、高75回)の皆様にも会報第145号をお届けすることとさせていただきます。

追加送付の学年は、年度毎に変更し、5年程度で一巡させたいと考えておりますが、賛助金にご協力くださいました皆様には、翌年度も引き続き同窓会報を送付させていただきます。

皆様よりお寄せいただく賛助金は、3頁の予算・決算書にご覧いただけますように本会の活動と母校への援助のために使われております。

令和4年度は、205万1,082円をご協力いただきました。感謝申し上げます。

今回より利便性向上のため、郵便振込に加え、スマホ決済・コンビニ振込(専用用紙が必要)にも対応いたしましたので、何卒ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

賛助金は、1口1,000円
できるだけ2口以上でご協力
ください。

郵便振込

郵便振替番号
021000412774
加入者名
福島県立白河高等学校同窓会

郵便局の手数料改定により、令和4年1月17日より現金で振込む場合、払込人負担(手数料110円)がかかるようになりました。

スマホ決済・コンビニ振込
同封の専用用紙(一律2口2,000円)
払込人負担はありません。

叙勲等

令和5年春の叙勲
星 浩次(高23) 瑞宝小綬章
金子英昭(高23) 瑞宝双光章
藤田 充(高23) 瑞宝双光章

(叙勲、訃報は学校内同窓会事務局にご連絡のあった方々をお載せしました。)

令和6年度総会のお知らせ

期日 令和6年 5月25日(土)
講演会 16時~17時
総会 17時~18時
場所 東京第一ホテル新白河

訃報

今井源吾郎(高6)	令29.9.5
藤田 和男(高11)	令3.11.15
田辺 義正(高6)	令3.12.
鈴木 康昭(高24)	令4.6.25
木村 幹(高7)	令4.10.27
今井昭吾(珠泉)(中22)	令5.1.15
和知 薫(高20)	令5.1.24
大谷恭太郎(高11)	令5.2.9
竹貫 博隆(高19)	令5.3.12
吉田 弘美(高7)	令5.3.16
嶋倉 晃(高1)	令5.3.28
渡辺 富夫(高19)	令5.3.30
大槻良太郎(高1)	令5.3.31
小河原寿夫(中23)	
菊地 秀男(中23)	

編集後記

母校創立100周年記念最大の記念事業の登龍会館の改修工事が完成。男女別の宿泊スペース等が確保され一段と使いやすくなりました。会報編集委員会には今年度から3名の才媛が加わり更に内容の充実を図ります。

山形県朝日村に棲息する野生の鷹を3年の長きに亘り観察し努力と根気の精髄が結晶した気品に満ちた「飛翔」200年に向けて飛躍する白河高校の象徴です。

会報編集委員会

会報担当	金澤 隆夫(高23)
同窓会副会長	堀川 哲雄(高15)
編集委員長	横村 勝己(高37)
編集委員	末永明日香(高62)
	穂積 怜佳(高62)
	大橋美夕紀(高65)
事務担当(学校)	鈴木 敏夫(高54)